

会員生協の活動報告 & 予定案内

福井県民生協 県民せいきょう40周年

今年は創立40周年記念の年。「感謝と挑戦」をテーマに多様な取り組みを開催しています。

7月には、おかあさんといっしょファミリーコンサート「ガラピコぷ〜がやってきた!!」を福井と敦賀の2会場で開催し、4公演で3,701人と多くの参加がありました。10月29日には西川知事、日本生協連本会会長をはじめ180人を超える来賓や関係者で記念式典を開催することができました。地区本部ではCO・OP商品実感フェスタや料理研究家奥園壽子さん講演会、室井滋さんの「しげちゃん一座」など多彩な記念事業が展開されています。

また新規施設では、4月にJA経済連との連携で「食品加工センター」をオープン、福井国体のお弁当製造にも協力しました。5月には南越前町に地域コミュニティ体型の初のコンビニエンスストア「ファミリーマート+ハーツ河野北前船主通り店」がオープン。過疎化が進む地域での新たな出店モデルとなりました。そして7月鯖江市8号線沿いに10店舗目「ハーツ神中店」がオープンしました。

これからも「組合員の満足と地域社会のために」の理念のもと、「感謝と挑戦」で「食と福祉とたすけあい」の事業と活動に取り組んでまいります。



菅浜生協 今年も沢山のイベントがありました 《炭焼き体験開催》

5/19地元美浜町東小学校3年生30名、5/25神奈川県大和中学校3年生22名、9/5東京都修徳中学校35名の炭焼き体験を行いました。初めに森の大切さ、炭焼きの歴史、炭焼きの方法について説明、その後木の切断、窯入れ、薪割、ケース詰めを体験した後、バーベキュー、味噌汁を堪能し、子供たちにとって楽しい思い出となりました。



《賑やかに開催… 8/12 すかまフェスタ盛大に》

夏の暑さを吹き飛ばすべく、今年もすかまフェスタが盛大に開催されました。当日は多くの区民、帰省客、観光客で賑わいました。川崎区長の開会挨拶、美浜和太鼓の演奏の後の、多くの人がカラオケに挑戦し大盛況でした。

生協の出店（生・缶ビール、ジュース、おつまみ、枝豆、コーヒー）も大繁盛でした。



5/2 菅浜区祭礼神輿

8/15 精霊船送り しめやかに

福井県医療生協 みんなで広げる健康習慣 「健康チャレンジ」に あなたもお気軽に参加を!

福井県医療生活協同組合では10月から12月で2か月間続けて生活習慣の改善に取り組む「健康チャレンジ」を実施します。項目は「毎日3千歩歩こう」や「歯磨きを1日1回5分行う」など気軽に日常生活で取り組むことができる内容になっており、4年目の今回は1200名の方の参加を目標に呼びかけています。年々参加者が増え、健康づくりに対する意識が高まっているのを感じます。子ども向け「きっすかあど」も用意しています。継続は力なり!!是非、みなさんご家族、ご友人と一緒に参加してください。

チャレンジは10月から12月までの間で2ヶ月間を、チャレンジ期間として取り組みます。たとえば、「10月から11月までの2ヶ月間」や「11月から12月までの2ヶ月間」でもOKです。取り組みやすい期間でチャレンジしてください。

「健康チャレンジ」の問い合わせ
医療生協組織部・林 (0776-27-2318) まで



福井大学生協 大学と共同で オープンキャンパスの企画をとりくみました

8月8日（文京キャンパス）、9日（松岡キャンパス）に開催された福井大学オープンキャンパスでは、生協学生委員会が中心になってキャンパスツアーや学生生活相談会、かき氷の無料配布などのとりくみを行いました。

今年は台風の影響もなく、両キャンパスともに過去最高の高校生や保護者の来場がありました。先輩学生が学部別にコース設定したキャンパスツアーのアテンダントとしてキャンパス内を案内しながら、大学生の生活や勉強の様子を丁寧に説明しました。

来場した高校生が自身の未来の大学生活への思いを伝えるメッセージカードには、キャンパスツアーや説明会で対応した先輩学生への感謝や「絶対合格したい!」などのメッセージが書かれたものあり、学生委員会にとっても励みになりました。



ふくいの生協

福井県生活協同組合連合会
〒910-0842 福井市開発5丁目1603番地(県民生協本部センター内)
TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050 Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2018年11月●日 No.121

<http://www.fukui.coop/kenren/>

福井県生協連合会

検索

18ふくしまスタディツアー報告

7月31日～8月1日

東日本・津波・原発事故 大震災から7年

“忘れてはいけない”

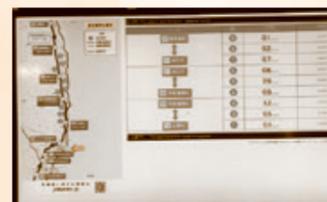
東日本大震災の被災地を忘れない取り組みとして、福島で見聞きしたことを会員生協での「被災地を忘れない、伝える」取り組みに役立てていただくことを目的に、会員生協の役員を対象とした『18ふくしまスタディツアー』を実施し、5つの会員生協より11人が参加しました。

福島県生協連の佐藤専務理事に同行していただきながら、JAふくしま未来、福島医療生協、福島県生協連、小名浜漁協、被災地（楢葉町・富岡町・双葉町・浪江町）を案内していただきました。視察先では、関係の方々からさまざまな困難な課題と闘っているお話を伺いました。

福島市内では、仮置き場がまだ決まらない除染廃棄物が、個人宅の敷地内など街のいたるところに点在していました。また、国道や高速道路、パーキングエリアなどいたるところに放射線量情報が掲示されています。福島では今なお放射性物質の数値を確認しながらの生活が続いており、震災と原発事故が福島にもたらした問題の甚大さ・深刻さを改めて考えさせられる視察となりました。



四倉パーキングエリアに設置されていた放射線量情報。



講師（JAふくしま未来の池田氏）横のパソコンの下にあるのが放射性セシウムの測定機械。約20分で分析数値が出る。右側の写真がゲルマニウム測定機械。こちらは約8分で分析数値が出る。



内部被曝を検査するホールボディカウンター。参加者の一人が検査着に着替えて検査。数分で検査結果が出る。

福島県の人口は、震災前は約203万人でしたが7年の間に16万人減少したそうです。鯖江市と敦賀市と小浜市の人口を合計した数とほぼ同じです。避難指示の面積は当初の3分1(370km²)まで縮小されましたが、住民帰還率は20%足らず。放射線への不安や働く場・買い物の場・病院など生活の基盤が整えられていない不安な状況の中での「帰る」「帰らない」の選択をめぐる感情は複雑で、特に子育てを



除染廃棄物の入った黒い塊がいたるところに。

しているご家族にとっては深刻なことです。

福島で見聞きしたことをそれぞれの生協内外に伝え、決して忘れない・支援の活動につなげていきます。

「生協ボランティア月間」が始まります。

2018年11月15日～2019年2月15日



福井県内生協ボランティア活動の一環として今年も「生協ボランティア月間」に取り組めます。古切手、書き損じ葉書、外国コイン、ベルマークを集めますので、ご協力ください。集まった収集物は福井県ボランティアセンターなどを通じて、収集ボランティア団体からコレクターなどに売られて換金されます。売上金が福祉活動に活用されます。お問い合わせは、福井県生協連合会 事務局まで。